慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	システムLSI（システム・オン・ア・チップ）事業推進におけるN社の組織的課題
Sub Title	
Author	初瀬陽一(Hatsuse, Youichi) 山根節
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1997
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1997年度経営学 第1369号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1369

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 1369

学生氏名　初瀬　陽一
（日本電気株式会社）

主査 山根　節
副査 小野桂之介
大林　厚臣

所属　山根　節　研究室

システムLSI（システム・オン・ア・チップ）事業推進における N社の組織的課題

半導体産業は高集積化と機能の向上を急速に技術進化させてきた歴史である。しかしながら、半導体産業もその歴史の中で企業類型が変化し、現在、各企業は新たな競争局面を展開している。近年、機能向上で差別化を実現してきたインテル社を意識し、各半導体企業は包囲網を形成する。N社をはじめとした日系エレクトロニクス企業はその包囲戦略として機能の大半を１チップに取り込んだ製品であるシステムＬＳＩ（システム・オン・ア・チップ）の開発に取り組む戦略をとる。そこで本論文においては、日系半導体メーカーのリーダーであるN社にスポットをあて、その戦略の有効性と意義を問い直した上、戦略と組織の不整合の課題を主に扱うこととしている。同製品に、半導体のこれまでの単機能製品とは違い、創造性も要求され、新製品開発において、研究の意義が高いと考えたからである。このとき、組織が環境変化をどのようにとりいれ、内部に吸収し、違ったパラダイムへシフトしていくかが重要となってくる。しかしながら、現在の半導体メーカーでは殆どの事業が多角化され、組織内外の連携が困難となってきている。そのような組織において、今後の社内連携のあり方、社外連携のあり方、ヒトという経営資源の組織化のあり方について分析し、学習する組織と環境変化をとりこむチームのN社への適用を提案していく。同時に、そういった組織においてはミドルを中心としたチームが主役であり、環境変化に対応してチームの再組織化がおこなえる組織であることが重要であることを提案する。また、そのためにはミドルを主体としたチームに継続的変革と学習意欲を創出させる経営のシステムと新たな組織文化の醸成が必要であることを提言する。